

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	研修や会議等で理念について話し合い共有を図っている。会議や朝礼等でケアについて理念と照らし合わせて考える事で意識を高めている。	理念にもある「地域における役割」について管理者を中心に、日々考える機会を設けています。年度初めには新人を中心に研修を行っています。	オンラインを利用して、職員への研修や周知徹底、遠方にいる家族や地域とのつながりを深めるなど、理念の共有と実践に多様な方法論に取り組みられることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な散歩や帰宅支援を積極的に取り入れ、近隣の方との交流やなじみの場所、人、ものとのつながりを保つよう努めている。地域の神社清掃に月一度、職員が参加している。	コロナ禍の状況にあって、以前のような交流は難しくなっていますが、敬老会の様子を動画に撮り、家族へ配信す取り組みが行われています。	家族だけでなく地域の方にも配信し、相互にやり取りができるような交流ができるとよいですね。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来訪されたご家族や知人の方に認知症についての具体的な日常生活の中での困り事や支援の方法についてお話をしたり、体験をお聞かせ頂き相談にのっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。利用状況や事故、苦情等を報告、意見を頂いている。得た意見を職員会議で報告、現場と照らし合わせて考え実践につなげている。	感染状況を考慮の上、開催されています。外部からの歯科衛生訪問や外部評価の結果報告なども行われています。	事業所や法人で実施する研修会などに、運営推進会議メンバーの出席をしてもらい、地域へ還元する取り組みが期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度や手続き等について随時、市の担当課へ相談している。包括支援センターの方からも運営推進会議を通じてアドバイスを頂いている。	令和3年度介護保険改定もあり、密に連絡を取り、連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するより実践的な研修を取り入れ、各職員が確実に理解できるよう努めている。同時に自分たちのケアの振り返りを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修・教育は定期的に行われています。日々のケアの実践の中で、拘束に当たらないかの精査も行われています。	「なぜこの対応をしたのか？」についてのアセスメントとエビデンスが重要です。利用者さん一人ひとりについて、随時見直しをしていかれることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で研修を行ったり、朝礼や会議で接し方、ケアについて度々話し合い、防止に努めている。委員会を通じて職員アンケートを取り、不安の解消や相談する場を設ける事で全体の課題として虐待を防ぐ事ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内で権利擁護に関する研修を行っている。現在利用されている方はいないが、グループホームにとって自立支援とは権利擁護とは等、意見を交換し勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に関する相談や施設見学時から、お話を聞き丁寧に説明を行っている。契約の締結の際にも再度説明し、疑問や不安は都度お聞きし説明している。解約、契約、改定時には書面でも説明し納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から面会時や電話でのご連絡の際に、相談やご要望をお聞きしている。内容は会議やミーティング等で話し合い、改善につなげている。	感染防止の観点から、直接会ってお話を伺う機会が減っていますが、電話やお手紙で簡潔ながら家族との触れ合いが持てるようにし、意見を伺う努力がされています。	これまでの方法に加えて、携帯やタブレットを利用して意見交換するなどの取り組みが期待されます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の話し合いや会議、面談において要望や提案を聞き、職員間で検討している。また、管理者は法人や他事業所、委員会につなげ改善を図っている。	カンファレンスを通して意見を吸い上げるほか、職員面談を実施しています。職員のニーズをもとに、ケアの実践につながる研修の形にするよう取り組んでいます。	意見の反映は、職員の気づきを促し、より良いケア実践の動機づけになります。今後も続けていかれることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年職員に自己評価表を記入してもらい、合わせて要望等を聞き、就業環境の整備に努めている。また、個人面談をとおしてやりがいや自信をもって働くことができるよう一緒に考える機会を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内研修を定期的実施。研修委員を主に各職員が内容の検討や資料を作成する事でスキルアップに努めている。ZOOM研修やロールプレイング式などより良い方法を模索し実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームと合同でPC研修を行ったり、法人内の他事業所の取り組みを会議等で共有している。また会報などで同業者の取組等を知り、自事業所のケアに活かせるよう努めている。グループホーム連絡協議会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前にご本人と面会し、これまでの生活の様子や不安等があれば伺うよう努めている。ご本人からのヒアリングが困難な場合もご家族からできるだけ詳細を伺い信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前にこれまでの生活歴や趣味、嗜好等も伺いできる限り家族の要望を取り入れるよう努め、常に家族の立場で思いを受け止めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に現状の把握、必要とされている支援等をご家族と十分に相談し、検討を重ねながら最善のサービス、支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	活動や軽作業はご本人が出来る事を自分のペースでできるよう促しながら一緒に行い、時間を共有している。また、苑内の飾り付けや行事の内容など一緒に考える機会を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の生活の中での障害や情緒面などの様子をご家族と共有し、生活歴や対話の中で得た情報をケアに生かしたり、お祝い行事の際にはご本人に喜んで頂けるようにとお手紙をお願いし、共に支えて行く為の関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策の為、人込みへの外出支援は控えているが、帰宅支援を積極的に行っている。近所の方へ声をかけ話をしたり、職員がなじみの場所を撮影し見て頂いたり、ご家族からの手紙を代読したりして関係を保つよう支援している。	感染予防しながら、家族の協力を得て外出したり、動画にて馴染みの場所や人に触れるよう支援しています。	動画や映像については個人情報保護に配慮しつつ、今後も継続されることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場においてそれぞれの能力や相性を考慮しながらできるだけ快適に生活できるよう努めている。状況に応じて職員が仲介、支援し、無理なく関わる事ができる関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も外出先等で会う機会があれば、その後の様子等を伺い、思い出話や家族の方々の話など聞いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で暮らし方の希望や今の思い、不安等をお聞きし、都度ケアミーティングで検討を重ねている。伝える事が困難な場合もご家族からの聞き取りや職員同士で本人にとって最善を話し合い、思いの把握に努めている。	高齢化に伴い、思いや意向を汲み取る難しさを感じていますが、利用者本人の思いは日々の中で把握に努めています。思いの実現には、家族の思いとの調整をしながら、日々努力をされています。	時にはご本人とご家族が納得できる代替案をどこまで出せるかが求められます。ご家族との信頼関係の構築が鍵となるでしょう。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の様子を本人、家族、担当ケアマネ等に伺い、他事業所や主治医にも経過等を確認している。また、在宅サービス利用時の様子を職員に聞いたり、家を訪問したりして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それまでの生活スタイルや興味のある事、できる事、必要な支援の程度などを本人やご家族に聞いたり、観察しケアミーティングにて職員間で共有、全員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	受け持ち担当制としており、都度、ケアミーティングを実施、職員間の情報共有と対応の統一化を図りながら、必要に応じ介護計画等を変更している。より職員への理解を深めるための方法を検討し、実践中。	一連の流れはできています。	より質の高い個別性を重んじたケアとなるよう、ケアプランと実践の現場の連動の充実が期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践結果を記録し、基に定期的なケアミーティングで支援内容の検討、期間を決めて評価する事でケアの見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前住んでいた自宅へ行き、草取りや掃除、近所の方への挨拶に同行したり、ご家族へ日頃の様子を動画にしたりDVDでお贈りした。また、来訪した子供たちにグループホームや認知症の事を知らせてもらえるよう、簡単な冊子を配布するなど多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する保育園の園児との交流を通じ楽しみを持ち、自然の風景を眺め回想したり、近くの神社で参拝し安心を得る事ができるよう機会を作っている。また、庭でとれた柿や野菜を使って料理をし、楽しんで頂けるよう支援している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向や考えを伺い対応している。受診の際は事前に連絡をとり同行をお願いしたり、遠方などでできない場合は報告をしている。日頃より病院、家族と連携を取っている。	かかりつけ医受診に際しては、情報を添えて家族に付き添いをお願いしています。ご本人の状況によっては、訪問診療も行っており、都度、ご家族への報告をしています。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関わりの中で気付いた事や変化を看護職に都度相談し、協力して対応している。看護職は医療機関とも連携し受診につなげたり、夜間の急変時待機看護員へつなげ適切に対応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ずサマリーを提供し、日頃の生活の様子等を報告し情報を病院側と共有している。定期的に面会に行き状態のみではなく、入院生活の様子も何うように心がけている。退院前もカンファレンスを依頼している。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、終末期を迎えた際の意向、当施設でできることについて説明している。時期に応じて再度説明し、主治医、家族との話し合いにて今後の方向性を決め、本人と家族の思いに寄り添った支援に努めている。より早い段階から家族との共有ができるよう見直しを行った。	これまでに看取りの経験があります。ご家族の要望に沿いながら支援を行っています。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が定期的な勉強会に参加、実践の訓練をしている。また、事故やヒヤリハットの報告書に基づき検証を行ったり、他事業所の事例を基に自事業所ではどうなのか考える機会を作り、事故防止に努めている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月「防災の日」に災害訓練を行っている。具体的な状況を想定して実践的な訓練を行い、ご利用者や職員が不安のないように努めている。地域の避難訓練参加を予定していたが、感染拡大の為に中止となった。	毎月の計画に則り、訓練が行われています。マニュアルなども整備されています。
				今後は看取りが増えると予想され、医療的に強い事業所が求められます。より良い終末期を迎えられるよう、職員教育の充実が期待されます。
				コロナ禍においては、これまでとは異なる状況に置かれることが想定されます。職員を今以上に巻き込んで、具体的な想定のもと、利用者への対応を考えていかれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が傷つかないように丁寧な言葉かけを心がけ実施している。定期的に勉強会を行い、言葉かけは適しているのかを皆で議論しながら実施している。	利用者一人ひとりについて、本人を知ることから始めています。個別の配慮が必要ということを職員間で心がけています。	どこまでをプライバシーとするか？などについて、職員間での共有を図っていかれることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を聞いたり、選択ができるような言葉かけ、働きかけを行っている。また、表情や動作を観察し、想いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースで休んで頂いたり、活動に参加して頂いている。その日の過ごし方の希望を聞いたり、ご本人の様子を観察し、無理のないよう個別に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	能力に応じ服を選んで頂いたり、鏡を見ながらできるだけ自分で整容して頂いている。また、行事や外出、家族との面会時にはおしゃれな服を着たり、ネイルや化粧をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずや材料の産地について話したり、食材によって形態を変えている。少しでもミキサーなどをなくし、噛んで食べるということを意識しながら準備している。利用者と一緒に材料切りや味見、食器洗い、台拭きなど行っている。	感染対策も観点から、現在は利用者さんが調理に携わっていただくのは難しい状況です。台拭きなど、できる範囲で関わっていただいています。	グループホーム創設時とは変化しており、より個別のニーズの把握と対応が求められます。認知症でも食事が楽しめる、食べてもらえる支援を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事制限がある方や小食の方は調整するなどそれぞれに応じた量や食事形態で提供している。食が進まない方には味を変えたり、時間を変えたりして提供をしている。また好みに応じジュースやパン等も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、能力に応じて口腔ケア支援している。た個別に歯科医師や衛生士に相談し、指導頂いたことを実践している。研修や都度の指導を通じ全職員が適切にケア出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が出来るように排泄パターンを集計し分析結果を職員へ周知して実施。おむつ使用者の減らし、トイレ誘導に変えたりと自立に向けた支援が出来る。また、利用者にあったパット類の検討を随時行っている。	一人ひとりに合わせ支援しています。入退院された利用者さんの変化にも対応して、自立を維持するようケアされています。	介護の力が上がることで、利用者さんの自立の維持は期待できます。引き続き支援されることが期待されます。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトやきなこ牛乳等をおやつに提供したり、歩行や運動、マッサージを毎日の生活の中に取り入れる事で、できるだけトイレで自然排便ができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ひとりずつゆっくり入浴して頂いている。希望に合わせて日にちや時間を調整したり、足浴なども行っている。季節に応じて入浴回数を増やすなど工夫している。	個別浴にて、各利用者さん週2～3回の支援が行われています。浴槽に浸かっていただくよう、入浴剤なども利用しながら努めています。	職員さんの負担軽減の観点から、ハード面の整備も検討されてははいかがでしょうか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態に応じ休息して頂いている。季節により湯たんぽを使ったり、エアコンをこまめに調節、遮光カーテンを使用し、安眠できるよう工夫している。希望により畳で休んで頂いたり、入眠の時間は本人に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬情報を基にどんなお薬を使用されているのか把握するようにしている。内服変更時や分からないことは看護職員に都度確認し、症状の変化についても観察、ミーティング等で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのADLと本人の希望に応じてできることを支援している。また、英語の先生だった方との英会話やピアノの演奏など生活歴や能力を生かした活動を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望をお聞きし、自宅への帰宅支援や行きたいときに散歩に行けるよう努めたが、職員の状況によっては待つ頂く事もあった。帰宅の際は近所の方に声をかけ、楽しく出かける事ができるよう努めた。	ご本人の希望に沿って、買い物や外出の支援が行われています。	今以上に外出の範囲が広がることを期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で本人の同行は控えているが、欲しいものや食べたいものをお聞きし、職員が代行したり、移動販売で購入するなどし支援した。お金の管理は一緒に行い、安心して自分で使うことができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人に贈り物やお手紙が届いた際にはお礼の電話や返信が必ず出来るよう支援している。敬老会ではご家族へお願いしお祝いのはがきを頂き、代わりに代読させて頂いた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新聞広告や地域のお知らせ等を提示したり、苑庭で摘んだ季節の花を飾ることで季節感を取り入れ心地よい空間づくりに努めている。、陽光を利用し活動する時には明るく、休む時には暗くなど生活のメリハリをつけながら工夫している。	日光を取り込んだり風、通しを良くするよう努めています。自然環境に恵まれた立地で、窓から見える風景は季節感を味わうことができます。音楽や人の大きな声などにも不快にならないよう配慮しています。	職員配置を調整するなど、居心地の良さはハード面のみならず、人的な面でも作り上げることができます。継続的に工夫していかれることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの特性を職員が認識し、その都度座席の変更や畳スペース、ソファ等を活用し対応している。少し離れた場所や、居室で過ごして頂いたり、会話がしやすいように座席を配置し臨機応変に対応、プライバシーも大事にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使用されていた家具や寝具を持参し使って頂いている。洋服ダンスを購入したり、家族からの手紙や写真を提示したり、居室に仏壇を置くなど本人の好みやこだわりを大切にしている。	安全面を配慮しつつ、ご自身のものを持ち込まれたり、ご家族や思い出の写真が飾られたりしています。	居室がよりその人らしい居心地の良いものとなるために、寝るだけの場所とならないよう、職員さんの気づく力が磨かれることを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体能力に応じ、手すりやテーブルをつたって歩いたり、自発的に訓練ができたりと配置を工夫している。道具を手の届く位置に置きできるだけ本人の力が発揮できるようにしたり、浴室やトイレ、居室は案内板で本人が分かるよう工夫している。		